

11

一般演題B

前立腺全摘後の陰莖リハビリテーションにおけるMasturbator (EGG) の使用経験

聖隷浜松病院¹⁾今井 伸¹⁾・吉田 将士¹⁾・米田 達明¹⁾・工藤 真哉¹⁾

【目的】前立腺全摘除術後の陰莖リハビリテーションにおいて、性的刺激の頻度は性機能回復を左右する重要な因子である。今回、前立腺全摘後にED治療を希望しながらもパートナー不在もしくは協力が得られにくい症例を中心に、PDE5阻害薬と併用する形でMasturbator (EGG)を用いた陰莖リハビリテーションを試みたので報告する。

【対象と方法】EGGを使用したのは前立腺全摘除術後のEDに対する治療を希望した6例。3例はパートナー不在。平均年齢は67.0歳。使用期間は1~3ヶ月。自宅でのリハビリの方法として、PDE5阻害薬を内服時にEGGを使用するよう説明した。

【結果】使用をためらった症例はなく、EGGに対する受け入れは良好であった。用手的刺激のみの場合と比較して、より性交時に近い感覚が得られ、使用後の満足度は高かったが、家族に隠れて使用する場所と時間に苦慮するとの意見もあった。また、以前TENGAを使用していた症例では、挿入に十分な高度が得られない場合も多かったため、EGGは硬度に関係なく使用できる点で満足が得られていた。

【考察】前立腺全摘症例は高齢者が多いため、本人が性機能回復を希望してもパートナー不在もしくは協力が得られないなど環境因子の面で不利となる場合がある。EGGを使用したより強い刺激(maximum penile stimulation: MPS)により、PDE5阻害薬による陰莖リハビリを本人が熱意を持って継続する動機付けとなる可能性がある。